



果樹特報

No.5

平成 24 年 6 月 1 日

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

近年発生が多い輪紋病・炭そ病・褐斑病はこれからが重要防除期となります。6 月以降の定期散布は概ね 14～15 日間隔で進めますが、雨や曇天が続く場合は、前倒して散布するようにしましょう。また、不明な点は営農センターまでお問い合わせください。

りんご

6 月上旬の散布（散布時期は前回より 15 日後とする）

散布日： 月 日

散布量： リットル

散布時期： 6 月 5 日～10 日（5 月下旬の定期散布が遅れた場合は、前倒して散布すること）

散布薬剤： 水 1 0 0 リットル
展着剤 1 0 ml
アントラコール顆粒水和剤 2 0 0 g（45 日前、4 回）
ダイアジノン水和剤 3 4 1 0 0 g（30 日前、4 回）
スイカル 1 0 0 g（カルシウム資材）*注意事項②参照

対象病害虫：黒星病・黒点病・輪紋病・炭疽病・褐斑病・斑点落葉病
アブラムシ類・ハマキムシ類・モモシンクイガ・クワコナカイガラムシ若齢幼虫

10 アール当り散布量： 600 リットル

【注意事項】*良くお読みください。

- ① シンクイムシ類・ハマキムシ類の多い地帯はコンフューザー R (100 本/10a) を 6 月 15 日頃までに設置する。
- ② カルシウム剤「スイカル」の 1000 倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。

○予備摘果の要領

1. つがる、秋映、陽光、紅玉の側果はつるサビが発生するので極力中心果を残す。
2. ふじ・王林は側果でも良いので肥大・果形を優先して 1 果そう 1 果にする。
3. ふじは早期に予備摘果を行うことが大玉生産につながり、隔年結果も防げる。着果量が少ない場合は、樹勢コントロールのため果形不良果でも着果させる。

【仕上げ摘果で残す果実】

- 花そう葉が多い果実
- 果梗が長く太い果実
- 縦長で肩がはっているもの
- 果台が 10～20 ミリの果実（ふじの場合）
- 果台枝が 15cm 以下の果実（ふじの場合）

【ふじ青玉（光玉）除去対策】

- 果台が 20 ミリ以上のところに結実した果実は青玉（光玉）になりやすいので極力摘果で落とすこと
- 近年、この果台が異常に長いものが増えています。摘果時に見落とさないようにしましょう。



*果台が 20 ミリ以上の果実は極力摘果する

もも・ネクタリンの防除は裏面をご覧ください

本年もせん孔細菌病の多発が心配されます。現在、春型枝病斑が散見されておりますので、定期防除だけでなく春型枝病斑の切除も実施しましょう！（詳しくは営農センター担当までお問い合わせください）

もも

第6回 定期防除

6月上中旬の散布(前回より14日後)

散布時期：6月8日～12日

散布薬剤 水 100ℓ
展着剤 20ml
デランフロアブル 166ml(7日前、4回)
バリアード顆粒水和剤 25g(前日、3回)

対象病虫害：せん孔細菌病・黒星病・灰星病・ホモプシス腐敗病
モモハモグリガ・アブラムシ類・シンクイムシ類

10アール当り散布量：500ℓ

【注意事項】

- ① せん孔細菌病発生園は、マイコシールド 1500 倍(21 日前、5 回)を加用する。
- ② デランフロアブルはブドウにかかるとサビ・汚れを生じる薬害が発生する場合がありますので、絶対にかけないように注意する。

散布日 月 日
散布量 ℓ

ネクタリン

第6回 定期防除

6月上中旬の散布(前回より14日後)

散布時期：6月8日～12日

散布薬剤 水 100ℓ
展着剤 20ml
トレノックスフロアブル 200ml(30日前、5回)
バリアード顆粒水和剤 25g(3日前、2回)

対象病虫害：せん孔細菌病・灰星病・黒星病
シンクイムシ類・モモハモグリガ・アブラムシ類

10アール当り散布量：500ℓ

【注意事項】

- ① せん孔細菌病発生園は、マイコシールド 1500 倍(28 日前、5 回)を加用する。

散布日 月 日
散布量 ℓ

【もも・ネクタリン せん孔細菌病対策 特別散布】

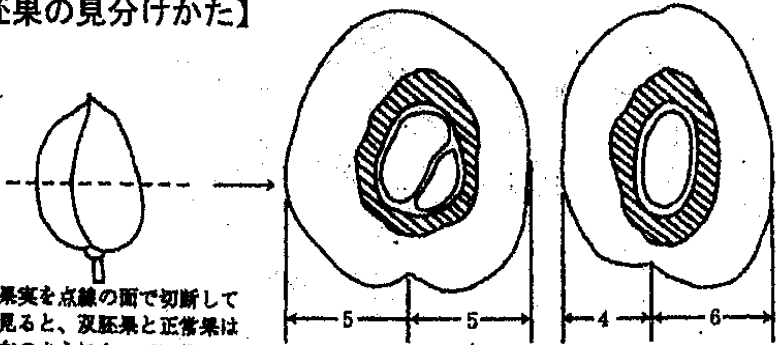
マイコシールドの1,500倍(もも：収穫21日前まで、5回。ネクタリン：収穫28日前まで、5回)を、第6回防除から7～8日後に特別散布する。＊ただし、収穫前規制に注意する。

摘果：急に強い摘果を行うと生理落果や核割れ発生の要因となりますので、必ず予備摘果と仕上げ摘果に分けて実施し、樹勢にあった着果量になるよう、ていねいに行なってください。

	実施時期	程 度
予備摘果	満開後30日まで	健全な大きな果実を残し、変形果・病虫害被害果を落とし、最終着果量の2倍位残す。
本摘果	満開後50日まで (6月20日頃までに)	品種や樹の大きさ・樹齢・土壌の肥沃度を考慮して実施する。 果実の選択：大きくて扁平なもので肌に光沢があるものが良い。つやがなくなった果実は生理落果する。大きくても丸い果実は双胚果である。(双胚果は核割れや落果の一因となる)

＊袋掛けの際に再度見直しを行う。なお、無袋においても引き続き見直し摘果を行ない7月上旬頃までに仕上げる。

【双胚果の見分けかた】



果実を点線の面で切断して見ると、双胚果と正常果は右のようになっている。
外観的にも、正常果は縫合線を中心とした左右の比が4：6であるのに対して、双胚果は5：5で丸みがあり、ずんぐりしている。

双胚果と正常果の切断面

【結果枝別の着果量】

結 果 枝	予備摘果	本摘果
長 果 枝	2～3個	1～2個
中 果 枝	1～2個	0～1個
短 果 枝	0～1個	0～1個 (5～6本に1個)

★土壌が乾燥傾向です。かん水の実施や下草の刈り込み、樹冠下への敷ワラなどを徹底してください。